

11月26日 Reflection4

本セッションでは、プロジェクトにおける事業評価という観点からディスカッションが行われました。

まず Group 1 からは、アウトプットとアウトカムとの差異についての学びがシェアされました。アウトプットが具体的なモノ（教科書や生徒の数）で測りやすい一方、アウトカムは「〇〇が改善された」などの抽象的状況を計測するため、より高度な指標が用いられると述べられました。次に Group2 はボトムアップアプローチとトップダウンアプローチについて比較を行いました。前者は JICA の実践のように、現地フィールドと協働して行われる特徴があり、後者は世界銀行の取組のように、国家レベルの主体と協働する特徴がある、と組織の事例を用いて比較をシェアしました。

議論では、研修生から「他の地域で行われたボトムアップアプローチの実践を、別地域で行われる他の実践に活用することができるのか？」という疑問が提示されました。プロジェクトを立案する際に、事例ごとに異なるインプットが行われるためです。この疑問に対し、活発な意見交流が行われました。Pare さんは、発展途上国においては、ボトムアップアプローチの方が活用的だという意見を、Nazish さんは、大きな範囲でプロジェクトを行う場合、ボトムアップアプローチは適さないのでは？という疑問を、Hanem さんは、ボトムアップのサイクルを繰り返し、トップダウンへとつなげるべきだと意見を述べました。

